

学生ダイアリー  
'14

作・小佐部明広

【登場人物】

田尻 ミサ（たじり みさ）

……大学3年生。21歳。イベントサークル「寿」3年目。昨年度の「寿」リーダー。

米沢 舞子（よねざわ まいこ）

……大学3年生。20歳。「寿」3年目。昨年度の会計。

山寺 圭（やまでら けい）

……大学3年生21歳。「寿」3年目。ミサと付き合ってる。昨年度の会計監査。

今井 由紀（いまい ゆき）

……大学2年生。20歳。「寿」2年目。「寿」リーダー。

天野 志保（あまの しほ）

……大学2年生。20歳。「寿」2年目。「寿」会計。

香川 実（かがわみのる）

……大学1年生。26歳。「寿」1年目。「寿」会計監査。

小畑 利夫（こはたとしお）

……大学1年生。19歳。「寿」1年目。

山野井 京介（やまのいきょうすけ）

……大学1年生。19歳。「寿」1年目。1年浪人した。

今井 リナ（いまいりな）

……由紀の妹。

## 第一幕

セミの音。

8月3日。土曜日。夏。午後4時前。

サークル会館の一室。

イベントサークル「寿」の部室である。

部室の中心に低い机が置かれている。壁際に棚がありファイルや書類がやや荒々しく詰め込まれ、収まりきらないファイルやら書類が棚の上や脇に無造作に置かれている。そのほか、イベントに使うと思われる衣装やら小道具やらが置いてある。部室は土足厳禁で、部室の前で靴を脱ぐことになっている。

建物は古いようで、改装していたとしてもそれから20年くらいは経っている感じである。部屋の壁や床はどこどころかハゲている。

リナがいる。

由紀はイヤホンをつけて携帯用音楽プレーヤーで音楽を聴きながら入ってくる。

リナ よっ。

由紀 (イヤホンを片方だけはずす) よっ。

由紀はカバンを置いて、USBメモリを取り出す。  
パソコンを起動する。

リナ なにすんの？

由紀 レポート。

リナ ふーん。

由紀はパソコンが起動するのを待つ。

声がきこえてくる。

京介の声 へー、あっそう。

利夫の声 でもさ、この前だって、え、そこでそれ言うみたいなことあったじゃん。

京介の声 あー。

利夫の声 だから、香川は、自分ができるやつっていうのをアピールしたいんだと思うんだよ。

利夫と京介が入ってくる。

京介 お疲れ様です。

利夫 お疲れです。

由紀 お疲れー。(イヤホンを外す)

利夫 できあ、その香川の、空気の読めなさなんだけどもさあ、俺のお父さんの友達にスピリチュアル・カウンセラーの人がいるんだけどさあ、なんかそういう人つてえ、自分に憑いてる悪霊に、気の、気ってオーラみたいなやつなんだけど、気の流れが阻害されてるらしいんだよねえ。

由紀は、自分の指を噛みながら、京介の方をチラチラ見ている。

京介 ふーん。

由紀 あ、京ちゃんさあ、

京介 あ、はい。

由紀 あの、テストどうだった？

京介 あーテストですか。

利夫はスマートフォンをいじりだす。

由紀 そう、ほら、京ちゃん今日が大学最初のテストだって言  
ってたから。

京介 あーでも、なんか思ったより難しくはなかったですね。

由紀 そうそう。やっぱり、高校るときと比べて、あんま勉強  
しなくてもなんとかなったちゃうんだよねー。

京介 そうですよねー。

由紀 とか言って、私、去年4単位落としてんだけどねー。

(笑)

京介 えーマジっすか、ちゃんと勉強してくださいよー。

利夫 ちょっと俺下で飲み物買ってくるわ。

京介 はい。

利夫は出ていく。

由紀 え、京ちゃんさあ、さっきのスピリチュアル・カウンセ  
ラーの話信じてる？

京介 まさかー。テキストに合わせてるだけですよ。

由紀 あーそうだよねー。

京介 あ、ききました？ 志保さんの。

由紀 え、なに？

京介 なんか準優勝したらしいですよ。

由紀 え、なにで？

京介 詳しくはわからないんですけど、なんか歌の大会で。

由紀 えーなにそれ。へー、そうなんだ。

京介 らしいですよ。すごいですよねー。

由紀 うん。すごい。

沈黙。

京介 なんかあつついですよねー。

由紀 あーうん、暑い暑い。

沈黙。

京介 なんか、ちょっとこう言うのもあれだと思っ  
てないんですよ。僕、ゆきりんさんがどう  
いう人なのか、まだよくわかってないん  
ですよねー。

由紀 え、私？

京介 はい。

由紀 えー別に、全然普通の人だよ。

京介 なんか壁作ってる感じというか。本当は  
どういうこと考えてんだらうって思っ  
てるんですよ。

由紀 あーそうなんだ。別に普通のことしか考えてないけどなあー。

志保が入ってくる。片耳だけイヤホンをつけてる。

志保 お疲れー。

京介 お疲れ様です。

由紀 お疲れ。

京介 志保さん、ききましたよー。

志保 え、なに？

京介 なんか準優勝したらしいじゃないですか。

志保 ン？ ああうんうん、でも準優勝っていつでも、石狩地区の大会だから。

京介 でも、ゆーでも準優勝ですよ。

志保 でも、優勝しないと北海道大会行けないし、ホント、全然大したことないから。

京介 あーそういうもんなんですか？

志保 あ、京ちゃん、これありがとうございます。(CDケースを渡す)

京介 あ、ありがとうございます。どうでした？

志保 えーメツチャよかったー。今日ずっときいてるもん。ねえ、他のCDも出してんの？

京介 あー僕持ってますよ。今度持ってきましたよ。

志保 本当？ お願いしていい？

京介 じゃあ明日持ってきますね。

志保 ありがとうー。

由紀 えーなに、私にも見して。

京介 あーどうぞ。(CDケースを渡す)

由紀 (CDケースを見て) へー。え、これ私も借りていい？

京介 あ、本当ですか。聴いてくださいよ。僕メツチャ気に入ってますよ。あとで感想聞かしてください。

由紀 うん、ありがとう。

京介 え、志保さん今日は歌うんですか？

志保 ン？ ああ路上？

京介 はい。

志保 ううん。さすがに忙しくなってきたから、こっちが終わるまではできないかな。

由紀、指を噛んで二人の会話を見ている。

京介 あーそうなんです。いや僕、一回行きたいと思ってた

んで、今度やるとき教えてくださいよ。

志保 うん、じゃあ今度やるとき連絡するわ。

京介 はい、お願いします。

志保 ゆきりんテストどうだった？

由紀 えー全然ヤバーい。下手したら今期0単かも。(笑)

志保 マジで？ ちゃんと勉強しなよ。

由紀 そうなんだけどねー。

香川が入ってくる。

香川 お疲れ様です。

由紀 お疲れー。

志保 お疲れー。

京介 お疲れー。

志保 あ、香川、結局家の鍵見つかったの？

香川 あーお蔭さまで、見つかりました。

志保 どこにあったの？

京介 結局、ここに置いてあったみたいなんですよ。

志保 あそっか、よかったよかった。

香川 (京介に) まだこれだけ？

京介 うん、あ、とっしー下に飲み物買いに行ってる。

香川 マジで。(腕時計を見て) あ、じゃあ俺もちよっと買ってくるわ。

京介 うん、行ってらっしゃーい。

香川 はーい。

香川は出ていく。

志保 京ちゃん、一年目って仲良くやってる？

京介 え、あー仲良くやってますよ。

志保 でも、香川とか接しづらくない？

京介 あー。

志保 いくつ上だっけ？

京介 8年間働いてたって言ってたんで、たぶん8つ上です。

あ、僕の7つ上です。僕浪人してるんで。

志保 でも7つ上ってことは、小1のとき中2ってことですよ？

京介 まーそうですけど、僕は全然普通に接してますよ。

志保 あーそっか。なんか私は、年下なのに学年は上ってことになるじゃん。どう扱っていいか微妙なんだよねー。

京介 あーなるほど。

志保 ゆきりんもそうじゃない？

由紀 あー、実際ねー。

志保 とっしーはどうなの？

京介 あー、とっしーは、別にホラ吹きですけど悪いヤツじゃないですよ。

由紀 えー、ホントに仲いいの？

京介 うーん、いや悪くはないですよ全然。

圭が入ってくる。うちわで自分をあおいでいる。

圭 お疲れーっす！

志保 お疲れ様です。

由紀 お疲れ様です。

京介 お疲れ様です。

圭 ヤバくね？ マジ暑くね？

京介 いやーそうですよねー。

舞子が入ってくる。

舞子 お疲れー。

圭 お疲れー。

志保 お疲れ様です。

由紀 お疲れ様です。

京介 お疲れ様です。

圭 よし、ちよつと俺服脱ぐわ。

京介 よつ！ 肉体美！（拍手）

舞子 えーやめてよ別に見たくないから。

圭 いや、見たい見たくないじゃなくて、見せたい見せたくないの問題だからさ。

志保 今日はミサっちさん一緒じゃないんですか？

圭 あーなんか今日体調悪いみたいだから、今日は休むって。

志保 あーそうですか。

香川と利夫が、飲み物を手に戻ってくる。

香川 あ、お疲れ様です。

利夫 お疲れです。

圭 お疲れー。

舞子 お疲れ。

由紀 えーつと、では、時間になりましたので、始めたいと思います。今日の活動始めます。よろしくお願ひしまーす。

一同 よろしくお願ひしまーす。

由紀 いやいよ、次の土日がお祭りの本番なので、頑張ってくださいましよう。じゃあ今日はまずお芝居の練習なので、志保お願ひしまーす。

志保 はい、祭2日目にやるお芝居の練習をしまーす。じゃあ、この前の続きから、最後の方の、ゆきりんと京ちゃんのシーンからいきます。

由紀 はい。

京介 はい。

おのおの、台本をとりに行く。

遠くからデモの音がきこえてくる。

舞子 またやってんね。

圭 あれってなんなん？

利夫 デモですよデモ。戦争反対ってやつですよ。

圭 へー。

利夫 そうそう、あの、北朝鮮の噂知ってます？

圭 え、なにそれ？

利夫 俺のお父さんの友達に政治家がいるんですけど、この前北朝鮮がミサイル撃ってきたじゃないですか、日本の近くに。

京介 あー、あつたね。

利夫 それで、その人の話によると、なんか次に北朝鮮が狙ってるの、北海道の発電所らしいんですよ。ミサイル撃ち込むらしいんですよ、北海道の発電所に。なんか発電所爆破して、停電させて、一気に攻め込むんだって。

京介 ふーんそうなんだ。

利夫 なんか、日本でも一部の人しか知らない情報らしいんですよ。世間に知れたら混乱するとか言ってます。志保さん、知ってました？

志保 ん？ ああ知らなかった。

利夫 やっぱそうでうよねー。

利夫は芝居のポジションにつく。

志保 ……じゃあ、

利夫 (やや笑いながら得意げに) でもさあ、もしそうだったら

アメリカが出てくるじゃないですかあ、アメリカが北朝鮮攻撃するじゃないですかあ、でもしたらたぶんロシアが出てくると思うんですよお。そしたらアメリカ対ロシアって感じになっちゃうじゃないですかあ、なんか今、冷戦みたいな感じじゃよつとしますしい、だから、もうそうなっちゃったら核戦争みたいになっちゃうってえ、そしたらあ、人類滅んじゃうと思うんですよお。でも、まあ、そもそも北海道攻め込まれた時点でえ、俺たちたぶん死んじゃうと思いますけどねえ。

(笑)

みんな、なにも返答したくないので沈黙。

志保 ……じゃあ、「なあ、俺さ、お前に、」からいきまーす。

由紀 はい。

京介 はい。

志保 じゃあいきまーす。よーい、(手を叩く)

京介 (由紀に背中を向けている) なあ、俺さ……、お前に、ひとつ、言っただけのことがあるんだ……。

圭と利夫は、物陰に隠れて二人を見ている。

由紀 え、なに？

京介 (全身で由紀の方に振り向いて) 俺、お前のことが好きなんだ！

由紀 ……え？

京介、走って、由紀を抱きしめる。

少しぎこちない。

由紀も京介の腰あたりに手を回す。

やはりぎこちない。

由紀 (顔を上げて、泣いた声で) ありがとう……、私嬉しい……

……、とつても嬉しい！

また抱きしめ合う。かなりぎこちない。

志保、手を叩く。

志保 はい、お疲れ様でーす。

由紀 お疲れ様です。

京介 お疲れ様でーす。

志保 うん、いいんじゃないかな。いい感じだと思うよ。

由紀 え、ほんと？ イェーイ。

圭 あ、あ、志保さあ、俺考えたんだけど、京ちゃんが告白するじゃん？ そのときに服脱ぐってのはどうかな？

志保 え、なんでですか？



圭 いや、理由はないけどさ、そっちの方が盛り上がんね？  
やっぱ祭の出しもんだしき、もっと盛り上がった方がよく  
ね？

京介 (ノリ気で) マジすか？ 脱ぎますか？

志保 いや、でも意味わかんないんじゃないですかね？

圭 うん、意味はないんだよ。

京介 いやでも、脱げって言われたら全然脱ぎますよ。

志保 いや、いいよ脱がなくて。

圭 いやでもさ、やっぱ脱いだほうが盛り上がると思うんだ  
よ。

志保 いやいや、女の人はひきますから、そういうの。

京介 え、じゃあ嫌です。僕女の人にひかれたくないですか  
ら。

圭 え〜マジかよノリわりいなあ。

香川 あ、あ。あの、ちよつと俺も言いたいですけど、

志保 うん、なに？

香川 なんか、ゆきりんさんの台本、ちよつと安直な感じしま  
せんか？

利夫 あ、それ、俺も思った。

由紀 ……えー、そうかなあ？

香川 なんか、ゆきりんさんの台本は、理想的っていうか、現  
実にそんなことないだろっていう感じがすると思うんですよ  
ね。

利夫 そうそう、なんか安直に見えるよな。

由紀 あー、うーん、そんなことないと思うけどなあー……。

志保 まあでももう時間もないしき、細かいことはいいんじゃないかな？

香川 いや、細かいですかねえ？

舞子 あ、志保ちゃんさあ、私思うんだけどね、なんか抱きつ  
き方がぎこちない気がするんだよね。

志保 あー、

京介 いやあーぶっちゃけ、恥ずかしいんですよえーやっ  
ぱ。

由紀 そうだよねえー。

舞子 (由紀と京介に) ねえ、ちよつと抱きついてみてもらって  
いい？

京介 はい。

由紀と京介は抱きつく。ぎこちない。

舞子 もつと、ここまで手え伸ばしてさ、

と言いながら自然な形に整える。

舞子 こういう感じになると、いいんじゃないかな？

由紀と京介、特に由紀は恥ずかしくてすごく緊張している。

音楽。

志保 あー、……でも、ちよつと近過ぎじゃないですかね、もうちよつと離れた方が、見ている方も恥ずかしくなくていいんじゃないですか？

舞子 いや、これくらい近い方が絶対いいって。

志保 あー、じゃあ、こういう感じでお願いします。

京介 (恥ずかしくて由紀から離れる) ああ、はい。

リナ ゆきりんの勇気リンリン妄想記、8月3日、日曜日。私は、妄想する。あなたは私とキスをして、恥ずかしそうにこっちを見ている。だから今度は私からキスをする。抱きしめ合って、私は、あなたの胸の中で、穏やかに眠る。……今日、あの人から借りたCDをきいてみたけど、私には、なんてことない、ふつうの曲という感じがして、その音楽のよさはわからなかった。テレビをつけると、おじさんたちが討論をしている。核戦争は、本当に始まるかもしれないらしい。核戦争が起きたら、私も、死ぬんだろうか。でも、私に、戦争を止めることは、できない。私にできることは、なにもない。ゆきりん。

リナ 8月4日、月曜日。アフリカで、エボラという病気が流行っているらしい。エボラにかかると、吐いたり、出血したりして、死ぬらしい。中国では、大地震があつて、400人くらいの人が死んだらしい。死んでいった人たちのことを、心からかわいそうだと思えない自分は、本当にダメなんだと思う。もし、私が死んだら、みんな悲しんでくれるだろうか。私が死んだら、お葬式が開かれて、みんな、なんとなく

暗い雰囲気になって、その雰囲気で泣く人もいるかもしれないけれど、きつと、心の底から、私の死を悲しんでくれる人は、いないと思う。でも、私だって、誰が死んだって、心の底から悲しめない。だから、自分が死んだときに、人に、悲しんでほしいなんて思うのは、傲慢だ。ゆきりん。

8月5日、火曜日。午後7時過ぎ。

ミサ は？ なにこれ？

鈴虫の声がきこえる。

ミサは由紀を無言で見据えている。

圭はミサの近くに座っており、配られた資料や、由紀に目をやっていく。

由紀は立ったままうつむいており、どういう顔をしていいかわからず、とりあえず無理して、少しだけ笑いを浮かべている。

舞子と京介は何か助け舟を出そうかと考えながら、由紀やミサや資料を見ている。

利夫はただうつむいている。

香川は資料とミサを見ている。

志保は、資料やみんなを見ている。

部屋の隅で、リナがそれを見ている。

ミサ え、なんで笑ってるの？

由紀は、もうどんな顔をしていいかわからない。

ミサ え、理由は？

由紀 ……。

ミサ なんで間に合わなかったの？ その理由は？

由紀 (また無理して少し笑って) ……テスト勉強が大変で…

…、

ミサ うんだからさあ、志保ちゃんだっけきてたじゃん、テストとかレポートとかあるけど大丈夫？って。

由紀 ……。

ミサ でゆきりん、余裕余裕って言ったよね？

由紀 ……。

ミサ あれ、言ってないか。言ったと思うんだけど？ 言っただよ言ってた言っただよ。志保ちゃん、ゆきりん余裕余裕って言ってたよね？ 言ってなかったっけ？

志保 あー、はい、言ってたと思います。

ミサ だよね？ 言ってたよね？

由紀 ……。

ミサ なんで黙ってるの？

由紀 ……。

ミサ あたしね、嘘つきっていうのが一番嫌いなね。嘘つき。嘘つくと人の心が傷つくじゃん。傷つくのね嘘つかれる

と。あれ、そうでもない？ 別に嘘つきに嘘つかれても傷つかないのかゆきりんは、嘘つきだから。

舞子 いや別に嘘つきとかいうことじゃなくてさ、

ミサ (黙って舞子を見ている)

舞子 ……だからゆきりんも結構ひとり抱え込んでるやうって言うかさ。別に、だから嘘つきとかって言うのは、ちょっとひどいと思うんだけど、(あまりミサを見れない)

ミサ (黙って舞子を見ている)

舞子 ……。

ミサ (ニコツとして) あたしがひどいって言うてる？

舞子 うん、いや、…まあだから、ひどいっていうかね、

ミサ (舞子を見ている)

舞子 ……。

ミサはお菓子を食べる。

由紀 ……あの、テスト勉強とレポートが忙しくて、こっちの方に手が回らなかったというか……。

ミサ (黙って由紀を見ている)

由紀 すみません……。

ミサ ……こう言うのもなんだと思うんだけどさ、ゆきりん祭つてのをナメてるよね。

由紀 ……。

ミサ ナメてるナメてる。全然ナメてる。あのね、簡単じゃないの。人を喜ばせるとかね、場を盛り上げるとかね、全然簡単なことじゃないの。簡単なことじゃない。ちゃんと計画立

ててき、ちゃんと準備してき、来てくれた人がなんの気兼ねもなく楽しめるようにすんのがあたしたち寿のメンバーの仕事じゃん？ その場のノリとかでどうにかなるもんじゃないじゃん？ なる？ ならないんだよ。今の話わかる？

由紀 ……。(指を噛んでいる)

ミサ 指噛んでんじゃねーよ。

由紀 すみません……。

ミサ え、ゆきりんはさあ、去年あたしがその場のノリだけでお祭り仕切ってるように見えたってことなのかな？ あっそうか、そう見えてたってことなんだ。へーそう見えてたんだ。

志保 いやー、ミサっちさんちゃんと準備してましたよ。

ミサ うんわかってるよそれはもちろん。自分ではわかっている。もちろんわかっているんだけどだからね、この一年間、ゆきりんはあたしの仕事を見て何を学んできたのかわかっていうことね私が言いたいの。あたしの仕事を見て。何を。学んだか。それをききたいっていうことなんだけどあたしは。

香川 あの、

香川は立つ。

香川 俺、去年ミサっちさんが作った進行表とか見たんですけど、なんかすごいアバウトっていうか、そんなにいい進行表じゃないなって思ったんですけど、

ミサ は？

香川 だからゆきりんさんももっとちゃんとした進行表をつくらうと思って、それで時間がかかってるんだと思うんですけど。

ミサ ……いやいや、は？ あのさ、全てがタイムスケジュール通りにいくわけじゃないのね。いくわけじゃないんだ。ギリギリにスケジュール組んじゃったたら、アクシデント起きたときに臨機応変きかないんだよ。全然きかない。

圭 でも、そういや去年はけっこう待ち時間みたいなの多かったよな。大したトラブルなかったし。

香川 あ、ほら、やっぱりそうだったんですよ？

ミサ いや、は？ あのさあ、お前の働いてたところがどんなふうになってたのかわからないんだけど、寿には寿のやり方っていうのがあんのね。香川も寿に入ったからにはさ、寿のやり方でやってもらわないと、みんな迷惑するわけ。わかる？ 香川 いやでも、やっぱりよくないところはどんどん直していかないといけないと思うんですよ。

ミサ じゃあおめえが作ってみろよ。

香川 ……。

ミサ 文句あんなら、お前が作ってみろよ。作れんだろもちろん、そんなにあたしのやった仕事に文句つけられるってことはさ。

香川 ……はい、わかりました。

ミサ ゆきりんいいわ、香川が全部作るから。

由紀 ……。

ミサ あとは？ もう全部終わってる？

志保 ……機材と案内状まだみたいですけど。

由紀 ……。

ミサ ゆきりんさあ、やっぱお前祭ナメてるよ。ナメてる。うん、ナメてるナメてる。

由紀 ……。

ミサ うん、じゃ香川、機材と案内状もよろしく。

香川 (ミサを見る)

ミサ もしかしたらよくないとこあるかもしれないし、直してよ、悪いところ全部。

香川 わかりました。

ミサ うん、じゃあもう結局今日はなんにもできてないってことね。ゆきりんが祭ナメてるのだけはわかったし、仕事は全部香川がするから、もう今日会議で話すことは何もないね。じゃあもうあたし帰るわ、帰る帰る。お疲れ。

ミサは出ていく。

志保はスマートフォンをいじりだす。

圭 (ニヤニヤしながら) あいつマジ不機嫌だろ？ 生理きてんだよあいつ(笑)。じゃ、俺も行くわ。(帰る準備をしながら)

つーかき、生理ってそんなイライラするもんなの？ ゆきりんとかけっこうキツイ？

由紀 ……。

志保 いや、まあやっぱりつらい人はつらいですよ。

圭 あーそうなんだ、志保もつらい？

志保 ……まーそうですねえ、でも薬飲めば私は全然。

圭 へー、かーらーのお？

志保 ……いや、はい、薬飲めば全然。

圭 ふーん。ちなみにその薬ってのはなに？ 生理止める的な？

志保 ……うーんと、だから痛み止めみたいなヤツです、痛み止めです。

圭 あーそうなんだ、そういやあいつも飲んでたわ。今日もなんか飲んでた。へー、あれそういう薬なんだ。でさ、ゆきりんもやっぱきつい感じ？

舞子 早く行った方がいいんじゃないの？

圭 ああうん、行くわ。お疲れ。

一同 お疲れ様です。

圭は出ていく。

香川 じゃあすみません、ファイルとかいろいろ持ってきますから。ちよつと全部もらっていいですか。

由紀 うん……。

香川は出ているファイルやUSBメモリなど必要そうなものを全部持って出ていく。

舞子 ……ゆきりん大丈夫？

由紀 ……。

舞子 ちよつと待ってて、なんか飲みもんでも買ってくるわ。

舞子は財布を持って出ていく。

由紀は指を噛み始める。  
志保はまたスマートフォンをいじりだす。

利夫 ……なんか、舞子さん最近弱腰じゃない？

京介 ん？ ああ、まあ確かに、

利夫 ちよつと前まで、ミサつちさんにガンガン反論してたよね？

京介 まあまあ。

利夫 なんか弱みとか握られたんかな。

京介 いやーどうかな。

由紀 ねえ、京ちゃん、ちよつといい？

京介 なんですか？

由紀 ああ、お芝居のやつなんだけど、最後の方の抱きつくシーンなんだけど、ちよつとだけ、練習してもいい？

京介 ああ、はい。

由紀 ああ、やつぱりあそこが一番、なんていうか盛り上がるシーンだしさ、

京介 はい、

由紀 なんていうか、なるべく、自然についていうか、ぎこちなくなくできると思うんだよね。

京介 はい、頑張ります。

由紀 うん、じゃあ「なあ、俺さ、お前に、」っていうところ  
でいいかな。

京介 はい、わかりました。

由紀 じゃあいってきます。よーい、はい。

京介 （由紀に背中を向ける）なあ、俺さ……、お前に、ひとつ、言ってなかったことがあるんだ……。

由紀 え、なに？

京介 （全身で由紀の方に振り向いて）俺、お前のことが好きなんだ！

由紀 ……え？

京介、走って、由紀を抱きしめる。

少しぎこちない。

由紀も京介の背中あたりに手を回す。

少し手に力が入る。体は密着し、自分の頭を京介の胸にゆだねる。

音楽。

京介は、由紀の演技に少し本気を感じ、どうしていいかわからずと  
あえずそのままにいる。

由紀は少しして京介から離れて、

由紀 はい、お疲れ様です。うん、なんか、こんな感じでよ  
さげかな？ っていう感じはすると思うんだけど、（手で自分  
をおおいで）やー、あつついね、

京介 あ、そう、ですね、

由紀 あ、志保ちゃんとか、見てたりした？

志保 ……うん、別にいいんじゃない？

由紀 あ本当？ あ、じゃあ、あの、こんな感じでいこうかな  
って思うんだけど、やー、なんかあつついねー、  
京介 ああ、はい、わかりました。

リナ ゆきりんの勇気リンリン妄想記、8月5日、火曜日。私  
には、つらいと思ったとき、私の話を聞いてくれて、キミは  
悪くないよ、とか、頑張ったね、とか、そういうことを言っ  
てくれる人がいない。いつも隣にいてくれる人が、私にはい  
ない。テレビをつけると、女子高生が、同級生を刺し殺した  
らしい。きつと彼女にも、つらいとき、君は悪くないよ、  
とか、頑張ったね、とか、そういうことを言ってくれる人  
が、いなかったんだと思う。私も、いつか、人を、刺し殺す  
のかもしれない。ゆきりん。

リナ 8月6日、水曜日。ガザ地区というところで、人が、人  
を殺しているらしい。どうして、人は、人を、殺すんだろ  
う。私は想像する。私の目の前に、人がいて、拳銃の引き金  
を引く。目の前の人が、死ぬ。想像してみても、私には、よ  
く、わからない。リアリティを、感じられない。でも、実際  
にそうやって殺したとしても、私は、殺すということに、リ  
アリティが、感じられないのかもしれない。ゆきりん。

リナ 8月8日、金曜日。外が少し霧がかっている。PM2.  
5というものらしい。そんな中、私はお昼に、デモに参加し  
てきた。もしかしたら、何かが変わるかもしれないと思っ  
た。街を歩いて、「ファシズムを許すな」と、大声を出して

きた。でも、途中でやめて帰ってきた。全然ピンと来なかつ  
た。私は、何も変わらなかった。……いよいよ明日、お祭り  
が開かれる。きつと明日もどこかで戦争が行われて、いろん  
な人が殺されるけれど、私たちは、バカ騒ぎをして盛り上が  
る。今日もたくさん人が殺された、明日もたくさん人が殺さ  
れる、あさっても、しあさつても、たくさん人が殺される。  
それでも私たちは、お祭りをして、バカ騒ぎをする。ごめん  
なさい。ゆきりん。

祭の音。

由紀が現れる。パソコンを開き、キーボードを叩き始める。

由紀 8月9日、土曜日。お祭りの、一日目が終わった。盛り  
上がって、あの人と、一瞬だけ抱きしめ合った。あの人  
は、軽い気持ちだったのかもしれないけれど、私は、嬉しく  
もあつたけど、とてもつらかった。だってあの人は、私のこ  
となんか、興味がない。今日は、アメリカが、イラクの過激  
派を空爆したらしい。これ以上人が殺されないように、人を  
殺すらしい。私には、なにが正しいのか、誰が言っているこ  
とが正しいのかわからないし、でも、もう、私には、関係な  
いと思うことにした。誰が死のうが、私は、もう、知らな  
い。私は、自分のことで精いっぱいだから、他の人の人生の  
ことなんか、知らない。ゆきりん。

祭りの音は消えていく。

8月10日。日曜日。午後9時頃。

「寿」の部室。

祭が終わったあと。

部室には由紀とリナ。

部室は電気がついておらず、月明かりや街灯の明かりが部屋を照らし  
ている。

由紀はぼーっとしている。

外からは鈴虫の音がきこえてきている。

京介が入ってくる。

電気はつけない。

京介 お疲れ様です。

由紀 あー、お疲れ……。。

京介 まだ残ってたんですね。

由紀 うん、なんか疲れちゃって……。

京介 大変でしたね、今日は。

由紀 うん……。

京介 いやー、でも仕方ないですよ。別に誰が悪いってわけじ  
やないですよ。

由紀 ……。

京介 機材トラブルですからね、仕方ないですよ。

由紀 ……。

京介 でも、やっぱさすがですねミサっちさんは。たった5分  
で、スケジュール全部組み替えましたからね。

由紀 ……。

京介 ま、そのおかげで僕たちのお芝居なくなっちゃいました  
けど。

由紀 うん……。

京介 ……ミサっちさんになんか言われました？

由紀 うん……。まあ、舞子さんが止めてくれたから、思った  
より怒られなかったけど。

京介 (優しい目で由紀を見ている)

由紀 お前には、リーダーの素質ないとか、そんな話。

京介 ……。

由紀 ねえ京ちゃん……。私疲れた……。

京介 ……お疲れ様です。

由紀 私だってさあ、別になりたくてリーダーになったわけじ  
やないしさあ……。

京介 (由紀を見ている)

由紀 志保がやりたくなさそうにしたからさあ……。仕方な  
く私がリーダーになっただけなのにさあ……。みんなで私に

責任押し付けてさあ……、

京介 (由紀を見ている)



由紀 もう疲れちゃった……。  
京介 (少しふざけた感じで) お疲れ様です。

と言いながら、京介は由紀の肩を揉む。

京介 わあー、ゆきりんさん、これけっこうこつてるんじゃないですかあ？ (揉み続ける) けっこう肩こり治すだけで疲れ方とか違ってますからねえ。

由紀 (揉まれ続ける) あー……。気持ちいい……。

京介 ……志保さん、もう寿辞めるらしいですね。

由紀 ……。

京介 ゆきりんさん？

由紀 ……？ ん、ああごめん、少し意識飛んでた……。

京介 大丈夫ですか？

由紀 うん、大丈夫大丈夫。

京介 志保さん、もう寿辞めるらしいですね。

由紀 ああ、らしいね。

京介 あ、聞きました？

由紀 うん……。

京介 ……志保さん辞めたら、会計僕やりますよ。

由紀 ほんと？

京介 はい。それに、ゆきりんさんもリーダーだからってあんまり無理する必要はないですから。なにかあったら全然相談のりますし。

由紀 ……うん。

京介 (肩を揉み終える) じゃあ、また、金曜の反省会的时候会に。

由紀 うん……。

京介 (帰る準備をする)

由紀 ねえ京ちゃん、

京介 はい。

由紀 私と付き合っで。

京介 ……。

由紀 なんてねー、うそそうそー。

京介 (由紀を見ている)

由紀 (京介とは目を合わせないで下を見ている)

京介、由紀を抱きしめる。

由紀もおそろおそろ京介の背中あたりに手を回す。

少し手に力が入る。体は密着し、自分の頭を京介の胸にゆだねる。

二人抱き合っている。

少しして、抱き合うのをやめて、

京介 (由紀の耳元で小声で) 今度の日曜、二人でどっか行きましょう。

由紀 ……。(うなづく)

京介 (ニコッととして) あとでメールします。

京介は出ていく。

由紀の空想、終わり。

リナ ……つて、なりたかったんだね。

由紀は、大きくため息。

リナ でも可能性あんじゃない？ 少なくとも姉ちゃんのこと嫌いってことはないでしょ。なんか気にかけてくれてるし。

由紀 どうだろ……。

少しして、由紀は、棚から服を取り出す。

リナ なにそれ？

由紀 いつつも京ちゃんが お芝居の時に着てた衣装。

リナ ふーん。

由紀、服に顔をうずめて、臭いをかぐ。

そのまま座りこんで、大きく鼻で呼吸しながら臭いをかぐ。そのまま床に横になって、臭いをかぎ続ける。

リナはそれをずっと見ている。

由紀、少し落ち着いてきて、起き上がる。

由紀 あー……、キモいなあー……。

リナ ……。

由紀 私、キモいなあー……。

リナ ……みんな、そんなもんだよ。

由紀 ……ねえ、リナは生まれてきたかった？

リナ どうか。

由紀 ……あつそう。

リナ 姉ちゃんは生まれてきてよかった？

由紀 ……どうか。

リナ 姉ちゃんはさあ、なんでこのサークルに入ったの？

由紀 え……、なんで？

リナ うん。

由紀 ……友達いなかったし……、大学入ったらどうにかしなきゃって思ってた……私、いろいろ頑張ったなあ……。メイクして、コンタクトにして、服選んで、髪なんか巻いちや

リナ ……高校までダサダサだったからね。

由紀 そう。髪ボサボサ、メガネ、デブ。ちよつとヒゲとか生えてたし、わき毛ボーボーだし、……そう考えると、今の私超頑張ってる。

リナ うん、超頑張ってる。

由紀 うん。……でも、もう頑張るの疲れた。

リナ じゃあやめれば？

由紀 ……そうもいかないでしょ。

リナ あつそ。

由紀 ……ねえリナさあ、私彼氏できたら変わると思う？

リナ さあ。

由紀 でも私すごい彼女向きだと思うんだ。すごい尽くすタイプだと思うし。

リナ ふーん。

由紀 ……ねえ、あんたって何？ 幽霊？

リナ かなあ？

由紀 そっか。

リナ たぶん。

由紀 でも、幽霊って足とかないと思ってたし。

リナ 確かにねー。

舞子が現れる。電気をつける。

舞子 お疲れ。

由紀 あ、お疲れ様です。

舞子 (少し部屋を見渡して) なんか喋ってた？

由紀 ああ、独り言です独り言。

舞子 あそう。(期待するように) ねえ、京ちゃんとなんかあった？

由紀 え、…いやー、なんにもないですよおー。

舞子 なーんだ、ちえつ。

由紀 ええー？ ちえつってなんですか？

舞子 いや別に。もう帰る？

由紀 あーはい、帰ります。

舞子 うん。

由紀 あの、今日は本当、すみませんでした。

舞子 ン？ あーいいいいいよ、別にゆきりんのせいじゃないし。機材トラブルだからさ。

由紀 すみません。

舞子 あんま自分のこと責め過ぎんなよ。

由紀 すみません。

ミサが入ってくる。

ミサ ああ、まだいたんだ。

由紀 あ、すみません。

舞子 忘れ物？

ミサ うん、たぶんスマホ忘れた。

ミサ、自分のスマートフォンを捜す。

舞子 じゃ、ゆきりん、お疲れ。

由紀 あ、はい、…お疲れ様です。

由紀は出ていく。

ミサ、自分のスマートフォンを見つける。

舞子 あ、ミサっち、ちよつとだけ時間いい？

ミサ (スマートフォンを見ながら) ン？ なに？ ちよつと圭待たせてるんだけど？

舞子 うん、ホントちよつとだけ。

ミサ (舌打ち) 言っとくけどさあ、舞子はね、あたしになにかお願いできる立場じゃないからね。

舞子 うん、わかっているわかってる。ちょっと面白いものあるからさ、見てほしいと思って。  
ミサ あっそう。

舞子はスマートフォンをいじりだす。

ミサ いやー本当信じらんないわー、ふつうに犯罪だからねえー。

舞子 (スマートフォンをいじっている)

ミサ いくらだっけ？ 45万？

舞子 えー勝手に増やさないでよ、42万。

ミサ あっそう。ダメだよ勝手に寿の金横領したらさ。

舞子 うん、ちよつとずつ借りてたつもりんだっただけけどねー、返せなくなっちゃってー。

ミサ なにに使ったの？

舞子 いろいろ。でも、去年ウチら小型スピーカーカー借りたじゃん覚えてないと思うけど。私惚れちゃってさあ。ヨドバシ行ったら8000円くらいだったんだけど、それが最初。あと、このヘッドホンとか。

ミサ 警察沙汰になっちゃったら親悲しむよ。

舞子 うん、そう思う。

ミサ で、なに？ 面白い動画でもあったん？

舞子 動画ってか画像なんだけど。これ、見てみて。

舞子はスマートフォン画像を一枚ずつミサに見せていく。

舞子 私ね、この二人どっかで見たことある気がすんのね？

この二人どこに向かっていると思う？ このふたりは、(次の画像)ホテルに、(次の画像)入っていききましたー。なんか見たことあるんだよねこの二人、(ミサを見て)ミサっちと京ちゃんにそっくりじゃない？

ミサ ……。

舞子 あ、もうバックアップとってあるから、このスマホ壊してもいいよ。弁償してもらおうけど。

ミサ ……。

舞子 なんで私ん家の近くのホテルにしちゃったかなー。

ミサ いや、知らないし。別人じゃない？

舞子 あそっか。じゃあ、これあなたの彼氏に見せちゃっても問題ない？

ミサ ……そりやダメでしょお……。

舞子 圭、きつと怒るだろうなあ。これ見たら百パー別れることになるだろうなあ。

ミサ やめてよお……、それだけはダメだよお……。

舞子 じゃあ、いくつかお願いきいてもいい？

デモの声が聞こえてくる。

ミサ ……。

舞子 私ね、なんでも平和っていうのが一番だと思ってるのね。もう今ミサっちの独裁みたいな感じじゃん？ そういうのやめてほしいのね。自分が一番みたいなの。特にミサっちゆきりんにあたり強いじゃん。

ミサ だってあいつ仕事できねえじゃん。

舞子 (黙って舞子を見る)

ミサ すいません……。

舞子 別に私の言うこときけつてことじゃなくてさ、要はみんなで楽しく仲良くやっていこうよつていうことだからさ。別に悪いことじゃないでしょ？

ミサ ……。

舞子 これから仲良くやってこ。

舞子 笑顔を作って手を差し出す。

ミサ (舞子を見ている)

舞子 できない？

デモの音が大きくなってくる。

ミサも無理やり笑顔を作って手を差し出し、握手。

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。全編はクラアク芸術堂の販売ページ(左のURL)から購入できます。ありがとうございます。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

## あとがき

「現代人」と「戦争」について書くように思いました。もちろんこの「現代人」というのは、現代人全員のことではないし、もしかしたら昔の人と同じような感覚の人が多かったのかもしれないし、そのへんのこととはわからないのですが、僕を含めた多くの現代人、が、戦争についてどのくらい関心があるのか、ということを書いていきたいと思いました。

ツイッターとかフェイスブックとかを見ていて思ったことがあって、僕たちは、「いい人」になりたいんだな、ということを思いました。原爆の日や終戦記念日には戦死者に思いを馳せる。自然災害の被災者を憐れむ。戦争に反対する。ということをやアピールすることにより、自分はいい人なのだ、と自分で思いたいのだな、という気がしている。簡単に言う、「黙祷している自分、いい人。」ということですか。「女性に親切にする俺、いい男。」というのと同じようなことです。そして、結局僕らの興味はそこなんだと思いました。僕らが興味を持つのは自分と、自分の周りだけで、社会とか、世界とかは二の次、三の次なのです。世界平和の実現とか、世界戦争の勃発とか、そんなことが起こったとしても、とりあえず自分の周りが安全であれば、大した問題ではないのです。今でも、世界のどこかで戦争やら紛争やら起こっています。でも、それをなんとしても解決したいという現代日本人が何人いるでしょうか。たぶんあまりいません。なぜなら、それが解決しようがしまいが僕たちの生活にはほとんどなんの影響もないからです。

それがいいことか悪いことかはわかりません。が、それは僕たちの知恵なんだとも思います。僕らの生活にほとんどなんの影響もないどころか戦争や紛争を気にしていたら、とても生きていけません。

ということ、今回の作品も、戦争のテーマ自体は二の次になりました。一部の現代人が抱える「生きづらさ」が主題になったような感じ

す。

この台本を使って、僕らが体験してきた「生きづらさ」とか「不安」とか「小さな挫折の連続」とか「後悔」とか「自分以外への無関心」とか、そういうものが表現できればなと思います。

世の中には、僕らの力ではどうにもならないことがたくさんあって、大きなことではいえない戦争、小さなことではいえない自分の感情さえもコントロールすることができないのです。特に、孤独を抱えた人間は、なかなかその孤独という感情、不安感や恐怖感、圧迫感、からなかなか逃れることができません。次第に世界とかかわることを放棄し始めた女子大生は、自分の空想の中にリアリティを見つけていきます。でもそれは、解決ではなく、ただの逃亡であって、どこまで逃亡しても、孤独は、どこまでもついてくるのです。結局彼女は孤独のまま、愛されないうちに死んでいき、自分から孤独を解決しようとしなかったことを、後悔するのです。

2014年7月4日(金) 小佐部明広

《上演記録》

劇団アトリエ第14回公演 デイリー作品4 『学生ダイアリー'14』

【キャスト】

田尻ミサ ———— 加納絵里香 (劇団800階)  
米沢舞子 ———— 柴田知佳 (劇団アトリエ)  
山寺圭 ———— 三木悠史 (演劇集団空の魚)  
今井由紀 ———— 山木真綾 (演劇集団遊畏坊)  
天野志保 ———— 西山佳奈  
香川実 ———— 小山佳祐 (劇団アトリエ)  
小畑利夫 ———— 村上友大 (劇団SOI's SUN)  
山野井京介 ———— 山口健太 (劇団しろちゃん/北海学園大学演劇研究会)  
今井リナ ———— 佐々木悠花 (劇団・木製ボイジャー14号)

【スタッフ】

作・演出 小佐部明広  
舞台監督 上田知  
舞台デザイン 川崎舞  
照明 樋口優里  
音響 小佐部明広  
衣装 加藤千尋  
小道具 有田哲 (劇団アトリエ)  
宣伝美術 小佐部明広  
制作 丹野早紀 (演劇集団空の魚) 有田哲 (劇団アトリエ)  
工藤亜希子

【日程】

2014年9月14日 (日) 15時/19時  
9月15日 (月) 12時/16時

【場所】

扇谷記念スタジオシアターZOO

【料金】

一般前売1800円 (当日2000円)  
25歳以下前売1500円 (当日1700円)  
高校生以下前売500円 (当日700円)

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

2014年9月12日 第1刷制作  
2017年10月4日 第2刷制作

《『学生ダイアリー』の上演について》

「一般前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合は、脚本使用料は無料です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラーク芸術堂企画運営委員会まで。

【クラーク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com